

未来をひらく

平成25年度

教育委員会の主な取組

北九州市教育委員会では、平成21年11月に策定した「子どもの未来をひらく教育プラン」に基づき、「教育日本一を実感できる環境づくり」を基本方針に、学校、家庭、地域の教育力を高め、それぞれが連携して、北九州市全体の教育力を高めていくための施策を総合的に推進しています。

いじめ対策の充実

いじめ問題については、いじめは「人間として絶対に許されぬ」「どの学校でも、どの子ども起こりうる」ことを前提に未然防止、早期発見、早期対応に努め、社会全体でこの問題に取り組み必要があります。事業の詳細については、3面をご覧ください。

小中一貫・連携教育の推進

義務教育9年間を通じた連続性・系統性のある学習指導・生徒指導を行うため、平成25年度から全市的に小中一貫・連携教育を推進します。事業の詳細については、2面をご覧ください。

家庭・地域と連携した学校支援と学習習慣づくり

学校と家庭・地域が一体となって学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ子どもを育成することも、地域の協力のもと学校の教育活動を支援する体制づくりを推進します。

家庭学習パワーアップ推進事業

家庭での学習内容、学習方法に関するアドバイスやノートのとり方、書き方などを盛り込んだ「(仮称)家庭学習チャレンジハンドブック」を作成し、全児童生徒に配布します。

学習支援型アフタースクール事業 ～学習支援特化型学校支援地域本部事業～

放課後等において、地域、大学生等の協力を得ながら、子どもたちに学習支援を行います。平成25年度は、10校に拡大して実施します。

市制50周年記念事業

市制50周年を記念して、「いちいちがし植樹事業」や「北九州市こころのふるさと作文コンテスト」(仮称)北九州の明日の子どもを育てるフェスティバル」などを実施します。事業の詳細については3面をご覧ください。

その他の主な取組

英語・外国語活動の充実

全小中学校にALT(外国語指導助手)を配置するとともに、小学生に「夏の教室」を活用した「英語活動体験プログラム」を実施します。さらに、北九州市・仁川市姉妹都市提携25周年を記念して、中学生を韓国仁川市英語村へ派遣し、外国語能力やコミュニケーション能力の向上を図ります。



ALTとのチームティーチングによる英語授業

東部地域における特別支援学校の整備

知的障害と病弱(心身症等)を対象とする特別支援学校を旧門司商業高校跡地に新設平成28年4月開校予定)するため、設計等を行います。

学校施設の防災機能の強化

学校施設に必要な耐震性能を確保するため、耐震補強工事(58校)を実施します。また、「吊り天井」構造になっている体育館の改修工事(12校)を実施するとともに、避難所に指定されている学校において、災害時に高齢者等が安全・安心に避難できる体育館の整備(20校)を行います。

北九州市立高校の部活動の充実

外部講師による指導強化、遠征合宿費の補助等を行うとともに、ダンス部などの部活動に活用できる多目的施設を新設します。



北九州市立高校陸上部(アジアクロスカントリー選手権)

(仮称)学研地区小学校新設事業

北九州学術研究都市地区の児童数の増加に対応するため、地区内に小学校を新設するための基本計画を策定します。

普通教室等扇風機設置事業

夏季の暑さ対策の一環として、中学校一、二年生の普通教室等に扇風機を設置します。

経済界との連携による学校支援モデル事業

企業がもつ人材や経営のノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修への講師派遣などを実施します。平成25年度は、モデル校を小学校11校から15校(予定)へ拡大して実施します。

「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」後期事業計画作成業務

平成26年度からの5年間で取り組むべき事業等を追加・拡充した「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」後期事業計画を作成します。

教育の現場から

第6回

4月から小中一貫・連携教育がスタートしました!

平成25年4月より、義務教育9年間の学校教育の一層の充実を図り、児童生徒の学力・体力の向上、いじめ・不登校を防止することなどを目的として、全ての市立小中学校で小中一貫・連携教育を実施しています。

本市の各小中学校、中学校区が直面している課題は様々です。このため、小中学校においては、校区内の児童生徒の課題や地域の状況等について共通理解を図り、課題等に応じた教職員交流、児童生徒交流、保護者・地域交流等に組織的・計画的に「できるところから」取り組んでいきます。保護者や地域のみなさまには、小中学校より取組について積極的に情報を発信いたしますので、ぜひご協力をお願いします。

今回は、先行的に平成22年度から24年度まで実施したモデル事業の中学校区を取組の一部を紹介します。

白銀中学校区

小倉北区

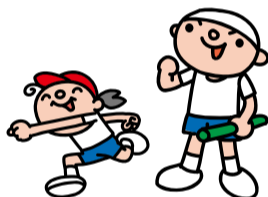
白銀中学校・貴船小学校・中島小学校

小学生による中学校体験(授業・部活動・行事)

貴船小学校と中島小学校の6年生を対象に、10月に白銀中学校の授業体験を行いました。体育、音楽、美術、技術・家庭、数学の授業を体験し、授業の後には全ての部活動を見学しました。子どもたちからは、「初めて知ることが多くて分かりやすかった。中学校に行くのが楽しみになった。」などの感想が聞かれ、小学生にとって中学校生活を知るよい機会となりました。

また、中学校の体育大会において、「小学校選抜招待リレー」として、両小学校の高学年と中学1年生のリレー競技を実施しました。小学校と中学校との交流を深め、地域の方や小学生の保護者などの多くの方々に白銀中学校のよさを知ってもらうよい機会となりました。

このように、両小学校の児童が中学校の授業や行事と一緒に体験することで、中学校入学への不安を軽減し、中学校への関心を高めることができました。



中原中学校区

戸畑区

中原中学校・一枝小学校・中原小学校

小中学生と地域による合同清掃活動

夏休みに小学生と中学生が合同で、まちづくり協議会と連携して、地域の公園などで清掃活動に取り組みました。

事前に小中学校の児童生徒の代表が合同会議を行い、清掃場所などの計画を自分たちで作成し、中学生のリーダーを中心とした小学生との合同チームで清掃活動を行いました。小学生は中学生のリーダー性や行動力を直接に感じて、「こういう中学生になりたい」という憧れや目標をもつことができました。中学生は小学生に対して優しい気持ちで接することができ、リーダーとしての自覚と自尊感情を高めることができました。

また、地域の方も共に活動していただくことで、小中学生の活動力や親近感を感じていただき、気軽に声をかけてくれるなど、地域との交流を図るよい機会となりました。子どもたちも、地域の方と協力することで、地域の一員としての自覚を高め、地域への愛着や責任を実体験として感じることができ、行動力の育成につながりました。



「4-3-2-1」の学年区分は何?

文部科学省の調査によれば、①義務教育6-3制が導入された昭和20年代前半と比較すると、身体的発達に2、3年早まっている傾向にある②「学校の楽しさ」「教科や活動の時間の好き嫌い」について小学4年生から5年生に上がる段階において肯定的な回答をする児童の割合が下がる傾向にある、ことなどが分かっており、従来の6-3制よりも子どもの発達・成長段階に応じた細かい学年区分を導入する自治体が増えてきています。

本市においても、義務教育9年間を通じて、児童生徒の発達状況に応じたきめ細かい学習指導・生徒指導を行うため、前期(小1~小4)「生活や学習の基盤づくり段階」、中期(小5~中1)「小中学校の接続の強化段階」、後期(中2~中3)「小中一貫・連携教育の充実段階」と「4-3-2-1」の学年区分を設定し、生活習慣・学習習慣の育成、規範意識の醸成等に取り組めます。特に、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行できない生徒が多いことから、中期(小5~中1)に小学校から中学校への円滑な移行に配慮した取組を行います。

主な取組

- 学校生活における生活習慣・学習習慣の育成「ガイド」の提示・活用の促進
- 中学校進学に向けた小学校高学年からのルールづくりの提示・活用の促進
- 家庭における基本的な生活習慣・学習習慣の育成「ハンドブック」、指導資料の提示・活用の促進 など



民間人校長登用について

従来の発想にとらわれない新たな学校経営を実現し、公立学校の魅力を高めるため4月1日付で2名の民間人校長を採用しました。教育に対して熱い情熱と理念を持った2名には、民間人ならではの視点や企業で培った組織マネジメント力などを取り入れて、よりよい学校経営を実践していくことを期待しています。



ひびきが丘小学校長 久富 繁雄 (54歳)
*出身企業 (株)福岡銀行
昨年12月末に銀行を退職し、この春から学校現場でのスタートをきりました。子どもたちが

積極的に勉強に取り組めるように、そして先生が子どもたちと向き合う時間がより多くなるよう、民間企業での経験や視点を活かしていきたいと思っています。

そして、家庭では、子どもたちがその日学んだことをいつも話題にするような、家庭と学校が一緒になって育てていける環境となるよう日々取り組んでいきたいと考えております。



北小倉小学校長 新開 毅 (47歳)
*出身企業 TOTO(株)
この度、北九州市の民間人校長にTOTO株式会社より応募し、四月から校長として勤務することになりました。赴任校では、民間で培った経営力・組織

マネジメント力や顧客志向を武器に、学校の安全・安心の提供はもとより、特に「考える力」「社会人になって(小学生ではほぼ10年後)生活していくための基礎的な力」の育成に重点をおき、若輩無才ではありますが全力を尽くす所存です。何卒ご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

いじめ対策の充実

これまで本市ではいじめは「人間として絶対に許されな」「どの学校でも、どの子にも起こりうる」とのちに開く重大な問題であると捉え、

- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用
 - アンケートや面談の実施
 - ネットトラブル等防止及び啓発・研修事業の実施
- など、様々ないじめ対策の取組を行ってきました。

本市の児童生徒がいじめ問題に悩むことなく、楽しい学校生活を送れるようになることを願い、本年度の新たな取組やこれまでの取組の拡充を予定しています。

平成25年度の主ないじめ対策として

- ① スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置の拡充
 - ② いじめ問題等に関する第三者検討会議の開催
 - ③ 小中連携によるいじめ・非行等対策のための市費講師の配置
 - ④ 心の教育の推進
 - ⑤ 教員向けいじめ問題対応の手引書「いじめ問題を見逃さないために」の改訂
 - ⑥ リーフレットなど地域・家庭向け、いじめ問題啓発資料の作成
- これらの取組を着実に進め、いじめ問題の解消を図っていきます。

市制50周年記念事業

● いちいがし植樹事業

本市のシンボルツリーである「いちいがし」を全ての小中学校等に植樹します。



● 北九州市こころのふるさと作文コンテスト

市内の小・中・特別支援学校の児童生徒からふるさと北九州への愛する気持ち等を込めた作文を募集し、優秀作品を表彰します。

● (仮称)北九州の明日の子どもを育てるフェスティバル

北九州市民全員で子どもたちを育てていこうという意識を高めるため、学校、PTA、企業、地域が協働し、教育イベント「(仮称)北九州の明日の子どもを育てるフェスティバル」を開催します。

「北九州市防災教育プログラム (資料DVD付)」について



学校における防災教育の重要性が高まる中、北九州市の実情に即した防災教育用の教材をとの声に応えて、平成24年度に作成し、今年度配布しました。

各教科における指導展開例をまとめた冊子と映像資料DVDをセットにした教員用の教材で、子どもたちの興味関心を高め、発達段階に合わせて、効果的に防災教育を進めることができる構成になっています。今後、各学校において有効に活用し、災害時に主体的に行動できる児童生徒の育成を目指して、取組を進めていきます。

郵便局と連携した子どもの見守りについて

いじめや非行等の問題の未然防止、早期発見、早期対応を図るため、市内の郵便局と連携した子どもの見守りを行います。

具体的には、市内の郵便局社員が、地域での業務中に子どものいじめや非行と思われるような場面を発見したときに、郵便局から教育委員会へ情報を提供していただきます。教育委員会は学校へ報告し、学校は事実確認を行うとともに、いじめ等の問題があれば解消するまで継続した対応を行っていきます。



PTA活動を通じて

北九州市教育委員
伊藤 一義



はじめに、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等へご入園・ご入学された新1年生の皆さん、ご入園・ご入学おめでとうございませう。私は、昨年の4月1日より教育委員に就任しました伊藤一義です。早いもので就任して、ちょうど一年を終えました。これまで、PTA活動を通じて学んだことや経験したことを基に、教育委員会会議等で思いや意見を発言しております。

現在、北九州市PTA協議会の会長を務めてから3年目を終えようとしています。子どもが中学校を卒業したため、6月の総会を以って会長職は終わりとなります。PTA活動歴は幼稚園時代から数えると13年になります。思い返せば、PTA活動を通じてたくさん子どもたちと触れ合ってきました。

「感謝（ありがとう）の気持ち」と「子どもも、保護者も、先生も楽しく」をモットーに、自分の学校の児童・生徒全員を我が子と思い、子どもたちには、学校生活の良い思い出を残してあげたい、保護者、先生には、「この学校に通わせて良かった！」と思ってもらえるよう、PTA会長職を一生懸命に務めてまいりました。残念ながら、PTA活動は、この学校も協力者が減り、一部に負担が偏っている現状ですが、各学校では特色あるPTA活動を行っています。

どうぞ、皆さんの通っている学校のPTA役員の頑張っている姿を見てください。PTA活動は、究極のボランティアであり素晴らしい活動であると思っています。仕事をしながら時間を作って活動している人、自分の時間を犠牲にして活動している人、色んな方々が、子どもたちや学校のために活動しています。PTAと学校が協力し合っている学校は、子どもたちの成長に間違いなくプラスになっています。

他人事と思わず、自らできることで良いのでPTAに関わって欲しいと強く願います。学校での子ども様、学校のこと、地域のこと、さまざまなことが分かります。また、仲間もできます。どうぞ、PTA活動に「一歩前」の気持ちで協力していただき、学校へ足を運んでください。温かい気持ちと目で学校を応援し、支えてほしいと願います。

学校、先生に余裕がなければ、子どもたちは良い学びができません。PTAが応援団となり、子どもたちのために学校、先生を理解し、協力しなければ、現在の学校は余裕ができません。学校、先生を一方的ではなく、多面的に捉えていただければ、また見る目も変わってくると思います。

一人一人が、「感謝の気持ち」をもって、できることから始めましょう。そうすれば、子どもたちは、落ち着いた環境（学び舎）で、多くの体験をし、成長することができます。

「大人が変われば、子どもも変わる」
子どもたちの手本となる大人に成長しましょう。

平成24年度 杉浦奨学生

芸術・文化、学術、スポーツの各分野で活躍し、北九州市の文化振興の担い手となる人材を育成するため、修学資金の一部が給付される「杉浦奨学生」に、平成24年度は卓球や水泳、アーチェリー、ヴァイオリン・ヴィオラ・指揮、化学・薬学で活躍している5名（高校3名、大学院2名）の方が決定しました。

平成4年度以降、119名が杉浦奨学生として採用されています。オリンピック代表や国内外での音楽活動など輝かしい実績を挙げている方が多数おり、平成24年度杉浦奨学生も今後の更なる活躍が期待されます。



贈呈式（平成24年12月25日） 前列：杉浦奨学生（2名代理出席） 後列：審査委員

英語大好き音読暗唱BOOK 「Rainbow」



平成25年4月、中学生を対象に音読暗唱BOOK「Rainbow」を配布しました。

「Rainbow」という名称には、北九州市内7区に在籍する生徒が、それぞれの力を発揮しながら、一丸となって将来への架け橋を築いてほしいという願いを込めています。

心を込めて英文を音読したり、反復練習を通して暗唱ができるようになったりすることで、英語の学習に自信をもち、総合的な英語力が身に付くことを目指します。また、中学生のこの時期から有名な英文に接することは豊かな心の醸成にも役立つと考えます。

本書では、「環境未来都市」である北九州市のことや本市の昔話なども取り上げています。「北九州市らしい英語教育」を推進することで、本市のよさを英語で表現できる生徒の育成を目指したいと考えます。

英語の時間に教科書や副教材と本書を併用するとともに、朝自習の時間や夏季休業期間中などの教育課程外の時間も有効に用いて本書を活用します。

お知らせ

「北九州ひとみらいプレイス」がオープンしました！

人づくり支援を目指して、八幡西区黒崎のコミュニティ内8施設の協働により「ひとみらいプロジェクト」を実施します。また、複合施設の顔となるインフォメーションを設置し、市民と各施設を繋ぐ役割を担い、市民間の交流を支援します。



安全対策ヘルパーによる通学路の安全確保



ブックヘルパーによる読み聞かせ活動

スクールヘルパー日本一を目指して！
スクールヘルパー制度は、市民全体で子どもの教育を支える本市が誇る教育ボランティア制度です。
登下校時の見守り活動などの安全対策のほか、授業の準備や学校の読書活動のお手伝いなどで、保護者・地域の方や大学の学生ボランティアの方など、約1万人の市民のみなさんに子どもたちの学校生活を支援していただいています。
北九州市では「スクールヘルパー日本一」を目指し、活動に協力いただける方を募集しています。

詳細は、各市立幼稚園、小・中・特別支援学校、市立高等学校、又は教育委員会指導企画課（093-582-2367）へお問い合わせください。